

鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	令和3年度第1回鳥羽市地域公共交通会議全体会
開催日時	令和4年1月13日(木) 13:00~14:40
開催場所	鳥羽市役所西庁舎 3階 中会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業評価について【資料1】 3. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 鳥羽市地域公共交通計画実施計画の進捗状況について【資料2】 (2) かもめバス交通系IC対応について【資料3】 (3) デジタルきっぷについて【資料4】 5. その他 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局の移管について
会議資料	事項書・席次表・委員名簿 【資料1】 事業評価 【資料2】 鳥羽市地域公共交通計画実施計画の進捗状況について 【資料3】 広報とば12/1号掲載記事 【資料4】 広報とば1/1号掲載記事
公開・非公開の別	公
傍聴人の数	2人
出席委員	立花会長、加藤委員、水谷委員、川北委員、濱崎委員、山下委員、鈴木委員代理 伊藤氏、松林委員、外谷委員、羽田委員代理 濱口氏、今井委員(公募)、片岡委員、中村委員、生川委員、木下委員、西川委員、山本委員、高木委員代理 小久保氏、小寺委員、田畑委員、辻川委員、福田委員
オブザーバー	なし
欠席委員	小崎委員、中村委員、杉阪委員、山路委員、山下委員(教育委員会)、豊田委員、清水委員、山下委員(桃取町内会)、今井委員(坂手町内会)
事務局	定期船課 世古、西根、角谷 企画財政課 齋藤
<p>1. あいさつ</p> <p>○事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配布資料の確認 ・出席報告 <p>○会長挨拶</p> <p>本日は年明けの慌ただしい中、また、ご多忙のところ令和3年度第1回鳥羽市地域公共交通会議全体会にご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の会議の内容は、協議事項といたしまして中部運輸局へ提出します令和3年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について、ご審議を賜りたいと存じます。また、報告事項では、新たに策定しました「鳥羽市地域公共交通計画」における実施計画の進捗状況をはじめ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として取り組んでおります、キャッシュレス化やデジタルきっぷ導入に関する報告があります。限られた時間の中ではございますが、よろしく願いいたします。</p> <p>2. 協議事項</p> <p>(1) 事業評価について</p> <p>○事務局</p> <p>資料1について説明。令和2年10月~令和3年9月の期間に実施された地域内フィーダー系統及び離島航路事業についての評価様式となる。</p> <p>○委員</p> <p>バスの乗り方動画の作成に取り組むとあるが、定期船内のモニターで動画を流したらどうか。それ以</p>	

外にも免許証自主返納者支援事業なども動画で紹介してはどうか。音声が入っていないもので良いと思う。定期船利用者はバスの利用も多いと思うので効果があると思う。

○事務局

いただいた意見を参考に実施できるよう協議したいと思います。

○委員

ABC 評価について、事業のなかには予定通り実施できているものもあり、コロナの影響でできなかったものは仕方ないと思う。総合的にみてB評価だということは理解できる。事業ごとに評価を分けることはできるのか。

○委員

様式はバスであれば路線・系統別に評価することが基本である。それぞれの路線単位で補助金が出ているので、路線ごとに目標を設定してその達成状況などを記載しないといけない。鳥羽は以前から全体のものしかないの、変えなければいけなかったができずにきてしまっている。他のところでは単純に前年と比較して増減があったかや、見直せばどの程度改善するというようなものが多い。それを計画の段階で書いておかなければいけない。住民の方の利用はあったが観光客が減少したという傾向があるので、観光客の利用が多い路線、少ない路線で評価が変わることになる。

また、④事業実施の適切性の評価について、ここでの事業は運行することに対し補助をもらっている、運行しているかどうかということ。コロナで減便していたらBやC評価だが、運行しているのでA評価でよい。運行以外の事業を含めてのB評価ということだが、そこは自主的に行っている事業であり、補助を受けている運行の部分で評価を行えばよい。

⑤の評価について、コロナの影響でどこでも利用者数は減っている、利用者数だけ見ればCとなってしまう。出控えたけど乗ってくれる人がいたのでBだったり、観光客が減ったのはコロナのせいなので来てくれた人が乗ってくれたかで評価してよいと思う。評価の基準は本来、目標に対してどうだったかであるが、コロナは目標決定時に見込んでいない。突発的な天災のようなものを含んでCとするのではなく、不可抗力であるからコロナで減ったなかでもきちんと運べていたということなのでB評価でよい。

○事務局

路線別の評価が行えるよう、次回の計画の目標設定時からやり方を変えていけるよう協議を進めていきたい。

○委員

補助金は10月から9月が年度であるから、今年の6月の計画の評価は再来年の1月になる。なので、今年の6月に今のものについても協議を行い、来年の1月に路線別の評価にすればいいと思う。今のものは目標が一体になっているのでやむを得ないが、④の評価は修正しないといけない。また、⑤に記載している内容は、地域公共交通計画の評価様式にそのまま記載すればよい。

○会長

修正し今回提出するものは後日、委員のみなさまに送付させていただきます。

○委員

様式について、事務局がさぼっていたわけではなく、一昨年11月に法律が変わり書式も変わった。それが決まらず早く出てきたわけではなく遅かった。これからは地域公共交通計画の策定が努力義務となり、計画がなければ補助金をもらえなくなった。そして、計画のためにやっている事業にお金を出している、計画についても評価することとなった。

○委員

離島航路についても、航路別に評価していくのか。

○会長

届出は鳥羽～神島航路として1つになっている。

○委員

国から求められているのは1つだが、どちらがよいかはここで決めればよい。バスの方は路線別になっているので分けなければいけない。

○委員

それぞれの航路でどのように取り組んでその結果がどうだったかを見ていった方が未来志向になるのではないかと思います。

○委員

一般的には5つ分かれているので、それぞれ特性があり別々の施策となる。だけど、分かれていても同じことを書いていることが多い。それぞれのところで努力したことを書いてほしい。

○会長

わかりやすいように表現できる方法を模索していきたいと思います。今回の提出分については、修正し提出するものを後日送付させていただくという形でご承認いただける場合は挙手をお願いいたします。(挙手全員)ありがとうございます。ご承認いただけましたので、事業評価を事務局で修正後、中部運輸局へ提出させていただきます。

3. 報告事項

(1) 鳥羽市地域公共交通計画実施計画の進捗状況について

○事務局

資料2について説明。新たに策定した鳥羽市地域公共交通計画は令和3年4月1日よりスタートしている。年度ごとに実績報告を行い、地域公共交通会議で協議し、その結果を所定の様式を用いて国へ提出します。今回は計画の初年度であり実績が出ていないため、様式を使用せず、計画の中にあるチェックシートを用いて実施計画の進捗状況を報告します。また、今年度の実績が確定している来年度に様式を使用した評価を行います。

○会長

市では、セキュリティ面やスマートフォン対応の観点からもホームページの全面的な見直しを進めている。かもめバス、定期航路は市民だけでなく観光客にも利用してもらっているので、たどり着きやすいホームページとなるよう見直していきたい。また、市長の政策としてコンパクト+ネットワークがあり、交通やデジタルなど様々なツールを活用して取り組んでいる。今日は企画財政課副参事が来ているのでそのあたりの話をお願いします。

○事務局

今年度よりコンパクト+ネットワークに取り組み、来年度についても継続していく。背景として、人口減少に伴う利用者数が減少することにより、公共施設の数も過剰な状態になっていくことのランニングコストを鑑みながら、ネットワークをどうしていけばいいかということです。それには、公共交通だけでなく、オンライン診療や自治体のDX化等を踏まえながら進めていきたいと考えている。

○委員

目標Ⅱ定期航路のキャッシュレス化について、かもめバスと同じ交通系IC対応ということによかったか。それから、できなかった理由が理解できなかったのがテクニカルな部分を含めて説明してほしい。また、目標Ⅳ答志島内での移動手段について、「移動手段の確保」の移動手段は何ですか。

○事務局長

定期航路についても、交通系IC対応を検討している。ただし、塩害の問題があり、乗り場の構造上、棧橋に向かうルートがいくつもあるので、棧橋に機器を設置すると潮の影響を受ける。建物内に設置する場合には、建物を通らずとも棧橋へ進入できる構造であるため、キャッシュレス化が進みにくくなっている。答志島内での移動についてはワンボックスの車を用意している。

○委員

今の話は、自動改札化だけではないですか。乗船券をICカードで買えればよくないですか。キャッシュレス化はクレジットカードなどもあり、買えるかが重要であって必ず乗り場に読取の機器を置くことが必要ではない。瀬戸内や九州など他のところでもだいたいどこからでも入ることができる。棧橋に改札を置いているところはない。棧橋でやっているところもあるが、それができなくても券売機で対応すればよいと思う。

○事務局長

先程の説明では言っていなかったですが、券売機での対応についても検討している。また、今年度のデジタルきっぷ事業で周遊券をデジタル化し、今後券種を徐々に拡大していきたい。

○委員

自動改札化を行う理由は、現金支払いからICカードに変わることで1人あたり0.5~1秒程度短縮される。利用が多い都市部では短縮することでダイヤが乱れにくくなる。鳥羽ではそこまでのことはない。乗船券を買うときに対応できればよい。

○委員

目標Ⅳの 2 つ目の文言を訂正してもらいたい。「答志町内会に委託し答志地区から…」を「答志・和具地区から…」としていただきたい。

○会長

承知いたしました。

○委員

目標Ⅳにある相乗の件はちゃんと報告してほしい。結局あの実験は何だったのかがわからない。

目標Ⅴかもめバス、定期航路の効率的な運行・運航でキャッシュレス化やデジタルきっぷが関係するのかがわからない。乗降が多いので早く捌くためとかでなく、利用者数を増やすためとなっている。

これらとは別だが、説明の後にコンパクト+ネットワークの話があったが総合計画に反映されているということでよかったか。であれば、上位計画である総合計画を基にこの交通計画を作ったので、別のこのように説明されていたことに違和感をもった。また、出てくるのが移動させないことの話だったが、この会議では利用を増やしたいので、移動させないことはそれに反した政策をやっておられるがそれでよいのか確認したい。出かけること自体が楽しみだったりしたのに、買い物ができればよいと移動販売や、オンラインでできればいいと、同じ役割ではないかもしれないのにそれしかできないようにしてしまうことで、出かけられる人が少なくなってしまう後退してってしまうように感じる。

○会長

全く移動を取り上げるという目的ではなく、地元の商店がなくなってしまうのでわざわざ地元以外に出かけなくても移動販売で買い物ができることと、出かけた時に利用できるような交通手段を確保することとの融合の話として紹介させていただいた。高齢化が進む中、不便を感じておられる方がいるので、紹介した政策等を含めてネットワークしていくという説明をさせていただいたつもりです。ただ、離島の対応ができていない部分があり課題となっている。

○事務局

公共交通を守るためにはたくさんの人に乗ってもらわないといけないという認識を持っており、それには市民だけでなく周辺の自治体からや観光客からも乗っていただける手段を考え、公共交通を守っていきたいと考えている。また、未来の鳥羽を考えると高齢者がますます多くなる中で、バスに乗ることが難しくなった方々がどのようにしたらへき地で暮らしていけるのかというのも考えながら進めていきたい。

○委員

コロナ禍で利用が怖くなったお年寄り利用はなくなり戻ってこない。その大きな理由は、出かける間に衰えてしまい出かけられなくなってしまった。今回コロナだったのでやむを得ないが本当に恐ろしいことである。出かけることで頭を使ったり体を動かすことで衰えないことがコロナでわかった。かもめバスや定期船が必要なものでカットして出かけることが余計におっくうになったらフレイルなどがどんどん進んでしまう。それから、元気な人はどんどん動きたいのもっと便利な場所へ行ってしまうので人口減少も止まらない。歩いて船や電車に乗って出かけられることによって衰えないので、高齢化になっても自分でいろいろなことができるというメカニズムを作ることがこの会議の大きな役割だと思っている。コロナ禍で出かけられなくなってしまった人に何をするのかと、元気で出かけた高齢者が動けなくて衰えてしまわないようにすることを肝に銘じてほしいと思う。

(2) かもめバス交通系 IC 対応について

(3) デジタルきっぷについて

○事務局

資料 3・4 について説明。かもめバス交通系 IC 対応は令和 3 年 12 月 1 日より対応開始。デジタルきっぷはかもめバス・定期船の周遊券に特典をつけたものを販売予定であり、新型コロナウイルス感染症対策としてのキャッシュレス化の推進及び事業者への支援を目的としている。

○委員

デジタルなのでどこでも同じものが使えるということを目指してほしい。電車とバスで交通系 IC カードが使えるのであれば、船でも使える方がいい。その方法は決済できることが重要なので改札にこだわらなくてよいと思う。デジタルきっぷについては 4 月以降は継続しないのか。また、できる業者はたくさんあるのでもっとオープンにしているいろいろ呼びかけてもよいと思う。自分のデジタルチケットは鳥

羽では使えないとなってしまうより、ICカードのようにメジャーなものはいきたい使えるとなっている方がよいと思う。

○事務局

今年度の事業としては3月までだが、4月以降も継続する方向で考えている。

○会長

実施後の結果を評価し、どのような形で継続するかなど検討していきたい。

4. その他

○事務局長

鳥羽市地域公共交通会議事務局の移管について報告。

定期船課が担当してきたが、人口減少に伴い市が進める施策や策定した鳥羽市地域公共交通計画の事業を総合的に推進していく必要があり、来年度から公共交通の企画や調整を担う企画財政課に移管することになりました。事務局は移管となりますが、今後も企画財政課と連携し引き続き運営に携わってまいりますのでよろしくお願いいたします。

○委員

例えば名古屋でも以前は交通局がやっていたが今は住宅都市局がやっているなどそうなっているところが多い。一般的な注意点ですが、交通部署が事業者的になってしまい民間事業者と変わらない考え方になってしまうことが多い。事務局として一緒に進めていく形を継続してほしいと思う。

○会長

これからも定期船課が所管するかもめバスと定期船が主となるので、総合的な調整を行う企画財政課を加えて両輪でやっていきたいと考えている。

○委員

かもめバスでICカードが使えるようになったが、チャージができない。他のバスなどではどうなっているのか。

○委員

三重交通ICカードエミカについては車内やきっぷ売場でチャージができます。全国交通系ICカードについては三重交通のバスにおいてもチャージはできない。窓口でも対応はしていない。全国交通系は駅やコンビニでチャージができる。

○委員

チャージができる場所の一覧は作れるのではないかと。意外とコンビニでチャージできることが知られていないと思う。鳥羽が全くできない土地というわけではないので簡単なリストで紹介できればよいと思う。

6. 閉会

○立花会長

令和3年度第1回鳥羽市地域公共交通会議全体会の議事については全て終了しました。